

きょう開幕!

東京パラリンピックが24日開幕する。世紀のスポーツイベントで、日々磨いてきた技を披露するのは選手だけではなく。同大会は競技用具など、国内企業の優れた技術が採用され、世界のアスリートの活躍を支える。競技で使用される用具やその部品を開発・製造する中小企業も多く、選手の栄冠をモノづくりに後押しする。

(名古屋・山岸渉、千葉・八家宏太、さいたま・阿部未沙子、渋谷拓海)

今仙技研

今仙技術研究所(岐ネの反発力を力強い走卓各務原市、棚橋浩りにつなげることが社長)は2014年かきる。さらにカタナからミスノと共同で、トンマは、カタナベータツプアスリート向けスに比べてバネを長くするなど、より推進力を高めている。カタナシグマは板バネの先端部分に穴を開け、従来比約15%軽量化したほか、空気抵抗を同約3割低減した。これにより板バネをより素早く振ることができ

15%軽量化・空気抵抗3割減 推進力高めた義足用板バネ

棚橋社長は「同板バネの主力は欧州メーカーだが、日本にも当社のようなメーカーがいる」と語っている。推進力を高める。カタナシグマは板バネの先端部分に穴を開け、従来比約15%軽量化したほか、空気抵抗を同約3割低減した。これにより板バネをより素早く振ることができ。棚橋社長は「同板バネの主力は欧州メーカーだが、日本にも当社のようなメーカーがいる」と語っている。推進力を高める。カタナシグマは板バネの先端部分に穴を開け、従来比約15%軽量化したほか、空気抵抗を同約3割低減した。これにより板バネをより素早く振ることができ。棚橋社長は「同板バネの主力は欧州メーカーだが、日本にも当社のようなメーカーがいる」と語っている。推進力を高める。カタナシグマは板バネの先端部分に穴を開け、従来比約15%軽量化したほか、空気抵抗を同約3割低減した。これにより板バネをより素早く振ることができ。



1面参照

パラ五輪支える 中小の技術

選手の活躍後押し

オーエックス

オーエックスエンジ、米アトランタパラリンピック(千葉市若葉区、石井勝之社長)品を使用した選手が累計で122個のメダルを獲得している。事業に参入したきつ、車いすテニスや車、重行氏がバイクの事故で脊髄を損傷し、車いすの生活を余儀なく



①テニス用車いす「TRZ」
②バスケット用車いす「BWMII」

された実体験だ。車いす生活の中で機能面だけでなく、デザインでも優れた車いすを開発したいとの思いが原点となった。パラリンピックや世界大会などの舞台で、コンマ数秒の瞬間が勝負を分ける極限の闘いに挑む選手一人ひとりの要求に応えるため、競技や選手の特性に

パラリンピックに出場予定の山本選手。本大会では名取製作所と共同開発したアダプターを義足に使用する



名取製作所

自動車向けのワイパットをつなぐ部品「ダ1部品製造を主力とするブルアダプター」を手名取製作所(埼玉県)がける。パラリンピック上尾市、名取秀幸社長は、陸上競技の男長は、約10年前にス子走り幅跳びに出場予ポーツ義足分野へ参入。定定の山本選手が同部した。スポーツを楽しむ品を使う。名取社長は「大会にむづかしい者と、障がい者を支える活動をする向、約2年間かけて人の姿をテレビ番組で山本選手と議論を重ね見たことが契機となった。軽量化やデザインに苦労したという。外部の

義足 強固につなぐ 開発2年間 選手と議論

知見を取り入れつつ試みられると嬉しい」行錯誤を重ねた結果、(同)とやりがいを笑新たな部品の重量は既顔で語る。現在、同社の製品は製品の約半分となる88・7gまで軽くすることに成功した。スポーツ義足分野へは、いろいろな人に使の参入の意義を名取社長は「モノづくりの業展開したい」と名取しさを感ぜられること、障がい者スポーツの裾野を広げるため、同社の挑戦は続た後、感謝の言葉をも



①開発したダブルアダプター
②軽量ながら丈夫で、ソケットと膝部分をつなぐ

弓具、パリ大会までに形

西川精機

西川精機製作所(東5年にわたりアーチェリーで使う健常者向け久社長)は、金属加工のノウハウを生かし、発にも乗り出した。国際球機を開発、普及に努めていた。投球機は

車いす競技、支える 機能・デザインを両立

じてオーダーメイドで製造している。石井社長は「選手に支持される勝てる車いす」にこだわっている。競技用車いすの製造で培われた技術が、日常生活で使用される車いす製造の技術進化につながっているという。石井社長は「最終的にはメダルに結果が分かれるが、それぞれの選手が自己ベストを發揮できることを期待している」とパラリンピックでの選手の活躍に期待を寄せる。

深層 SPECIAL EDITION 断面